

教材事例書式

<p>教材教具名 一対一対応（初期段階）の学習</p>	<p>教科（数学）</p>	<p>情報提供者 （ 中学部1年生 ）</p>
<p>教材教具写真</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>		
<p>教材教具の概略（ねらいと使い方） ※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等</p>		
<p>1 ねらい 一対一対応の理解を深める。</p> <p>2 発達段階など 一対一対応ができる段階</p> <p>3 使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 取組当初は、入れるもの（対応させるもの）を教師が一つずつ手渡し、理解が深まってきたらお皿等に入れ、自分で取って入れさせる。 ○ 枠内に入れるだけでなく、入れたものを取り出すことにも取り組むことにより、1対1対応へのイメージをもたせやすくする。 ○ 戸惑っている時や難しそうな時には、入れるべき位置を指差して気づきやすくしたり、とらえやすい位置に教材を動かしたりする支援を行い、成功体験で終われるようにする。 		
<p>児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等（次に利用する方のために）</p>		
<p>どの教材も、100円ショップにおいて手軽に購入できるものや、家庭で使用した後に処分するような身近にあるもので作成しています。</p> <p>この教材で学習している生徒は、一対一対応の学習の取組当初においては、教材自体を指先でつまむことが難しく、また、着席し集中して学習をし続けることもなかなかできませんでした。が、一つの教材に取り組む時間を短くし、スモールステップで繰り返し取り組んでいくことにより、一対一対応への理解だけでなく、手指の巧緻性や操作性も高めることができ、そのことが学習成果を高めることにもつながりました。</p>		